

2 課 条件を表す文

文章としてのまとまりを持たせるために、ある条件をどう扱うかがポイントになることがあります。仮定か・確定かの判断とともに、後に来る文はどうかつなげるのかなどが文の流れを決める要素になります。

A 条件を表す文法形式(仮定か確定か)

◆同じ文法形式でも、実現していないことを仮定して条件を言う場合(仮定)と、実現したことを条件として言う場合(確定)があります。文脈からそれらを判断します。

1. ～とあれば →第1部9課

例・わたしが経営している幼稚園が存続の危機に陥っている。地域の子供たちはどうなるのだろう。子供たちのためとあれば、わたしは私費も投じるつもりだ。(確定)

2. ～たら最後・～たが最後 →第1部9課

例・我々は社会的な信用を失わないようにしなければならない。信用を失ったら最後、取り戻すのは難しい。(仮定)
・今回の事故で我々は社会的な信用を失ってしまった。信用を失ったら最後、取り戻すのは難しいだろう。今後の方策を真剣に考えなければならない。(確定)

3. ～ようでは →第1部9課

例・君は小さいことを気にし過ぎだ。小さいことをいちいち気にするようでは、いい仕事はできないだろう。(確定)

4. ～なしに(は)・～なしでは・～なくして(は) →第1部9課

例・どんな分野でも基礎研究には経済的支援が必要だ。支援なしにはいい研究はできないだろう。(仮定)
・我々の研究は国に理解してもらえず、経済的支援が得られなかった。支援なしには研究は続けられない。計画を中止せざるをえなかった。(確定)

5. ～くらいなら →第1部9課

例・これ以上無理をしたら体を壊すかもしれない。体を壊すくらいなら、この仕事はあきらめたほうがいい。(仮定)
・無理をして体を壊してしまった。体を壊すくらいなら、初めから引き受けなければよかった。(確定)



6. ～(よ)うと(も)・～(よ)うが →第1部10課

例・周囲の人はこの計画に反対するかもしれない。たとえ反対されようと実行したいと思っている。(仮定)
・周囲の人はこの計画に反対している。しかし、反対されようと計画は変えられない。(確定)

7. ～たところで →第1部10課

例・議論をまだ続けますか。続けたところでいい結論は出ないと思いますが。(仮定)
・朝から議論をしている。しかし、議論をしたところで無駄だ。(確定)

B 反実仮想(実現しなかったことを仮定する)

◆実際には起こらなかったことを言うために、事実とは違っていることを仮定する言い方です。後悔やほっとした気持ちを表すことが多いです。→第3部1課

例・「～ば・～たら・～なら」または「～ていれば・～ていたら・～ていたなら」
文末:「～のに・～だろうに・～ところだった・～んだった・～ばよかった・～ものを」

例・事故を起こしたあの電車に乗っていたら、危ないところだった。
(事実:電車に乗らなかったから危なくなかった。)
・言葉の使い方にもう少し注意していれば、誤解されないで済んだものを。
(事実:言葉の使い方にもう少し注意しなかったから誤解された。)

C 条件表現のそのほかの用法:前置き

◆思考や発語を表す動詞(思う・考える・思い出す・振り返る・言うなど)を使って前置きを言います。仮定の意味はありません。

例・思えば、あの事件もずいぶん昔の話になった。
・考えてみれば(考えてみると)、誤解の原因はわたしの方にあるのかもしれない。
・わたしに言わせてもらえば、苦勞したことがない人にリーダーの役はできない。
・住民税の増税は、言ってみれば「弱者いじめ」であるという声も出ている。
・はっきり言うと(言えば)、この作品は前のより悪い。



練習1 どちらか適当な方を選びなさい。

- 1 どんな会社も営業部門が大切で、わが社も力を入れている。(① a 営業活動を抜きにしては b 営業活動をしないとあれば)、会社の経営も成り立たないと言ってもいいくらいだ。しかし、営業マンに対する扱いは厳しい。結果を(② a 出したら最後 b 出さないことには)、評価してもらえない。先日も1週間頑張ったが、注文がうまく取れなかった。上司に、1週間で注文が1件も(③ a 取れないとしたら b 取れないようでは)営業マンとは言えないと言われてしまった。
- 2 教育をめぐるさまざまな議論が起きている。「詰め込みは良くない。子供たちに自分で考えさせるようにしなければ(① a だめだ b だめだっただろう)」という意見がある。これに対して、一定の知識をきちんと(② a 教えなかったのなら b 教えることなしには)子供たちの基本的な力が見つからないという意見もある。いずれにしても、今の公教育を真剣に(③ a 考えなければ b 考えないとあれば)日本の将来が心配だ、という危機感から発した議論であろう。
- 3 大人になってから、若いときもつと勉強して(① a おくんだった b おけばいい)と後悔する人が多い。わたしも、勉強しろとうるさい親の言うことを(② a 聞いていればいい b 聞いていればよかった)と思うことがある。成績の問題ではなく、難しい(③ a 課題だとしたら b 課題であろうと)一定時間取り組んでいられる我慢強さは、子供のときに養われるものかもしれないのだ。
- 4 就職活動ではさんざんな目にあつた。第一、活動を開始したのが遅かった。もっと早くから始めれば(① a チャンスがあるが b チャンスが あつたものを)、10月にはもういい就職先はない。日本語の力も弱かったと思う。面接で、「日本語が上手に(② a 話せないようでは b 話せないとしたら)接客業は無理だ。」と言われた。その通りだと思う。後輩に言いたい。君たちはまだ時間がある。日本語能力試験にも(③ a 合格したほうが いい b 合格すればよかった)。頑張ってください。

まとめ 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、□1 から □5 の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

いかなる組織においても、最も重要な判断は人事である。□1、有能な人間が集まれば、あとは自然に良い方向へ流れて行く。人事を司る人間に必要なものは、何と云ってもすぐれた大局観と公平さである。この二つを兼ね備えた人間が□2、その人に人事を一任するのが最もよい。民主主義とは多数決であるから、しばしば力関係が反映され過ぎ公平を欠くし、大局観も平均値的レベルにしかなり得ない。学内人事におけるすぐれた大局観とは、その学問分野全体を展望する広い視野と、これからの潮流を流行にとらわれずに見通す洞察力である。公平とは無私である。

この二つを備えた人間を探すのは、考えるほど容易でない。□3、民主主義花盛りの現今では、その人間に一任とはなりにくい。そこで通常は、学問的業績の高い人とか政治能力の高い人、人格の高い人、派閥の長などが民主的会議の場で実権を□4。ところが、このような人々が、上に述べた二つの資質を持っているとは限らないのである。学問的業績が高いということは、細分化された現在の学問では、それだけ自らの専門への傾斜が強かったということは□5、すぐれた大局観を必らずしも意味しない。人格や政治能力が学問的見識と無関係なのは言うまでもない。

(藤原正彦『遙かなるケンブリッジ 一数学者のイギリス』新潮文庫刊)

- | | |
|------------------|------------------|
| □1 1 人事さえうまく行き | 2 人事がうまく行かず |
| 3 人事がうまく行かないとしても | 4 人事さえうまく行ったとしても |
| □2 1 いると | 2 いれば |
| 3 いたとすれば | 4 いたとなったら |
| □3 1 仮にいたとしたら | 2 仮にいないとしたら |
| 3 そもそもいないことには | 4 たとえいたとしても |
| □4 1 握りたくなる | 2 握れなくなる |
| 3 握ることになる | 4 握ることはなくなる |
| □5 1 意味しても | 2 意味したところで |
| 3 意味しないが | 4 意味しないにしても |